

愛とは・・・

絵本：キャプテン A T

LONG Var

前書き

愛とは自分で決めて行う事

これは私 A T が、最終的に得た答えでした。

そこに至るまで、どんな思いで、どんな考えでそうなったのか？

また、その言葉の意味は？

多くの人にその事を解って頂く為に、絵本にしてみました。

注意：物語を楽しくするために、一部フィクションも含んでおります。

その少年は、知りたかった
機械の仕組み、生き物の仕組み
星はなぜ輝くのか？
太陽はなぜあったかいのか？
宇宙はどうなっているのか？

解らない事が我慢できなかつた
のです。





少年は、いろいろなモノを分解しては
両親を困らせていました。

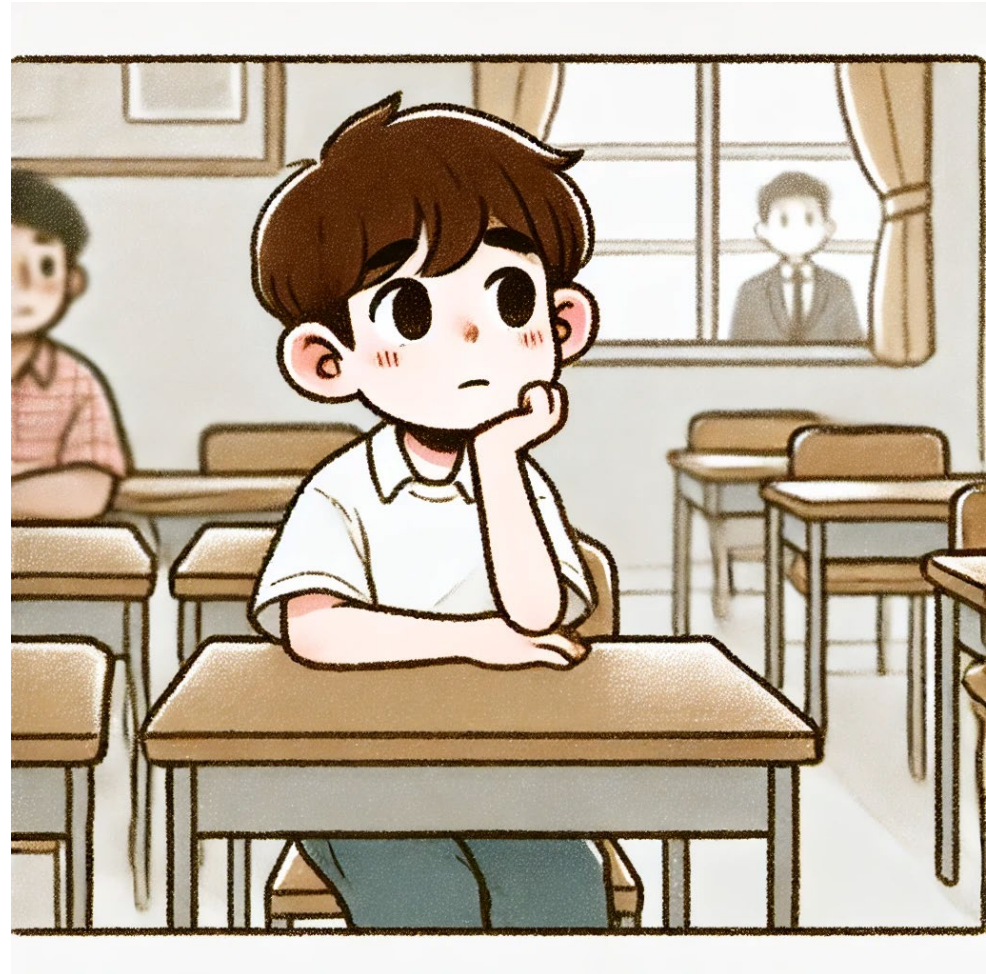
もちろん子供に詳しい仕組みは
解りませんが、

とにかく、一度やってみる。
壊れるかもしれない
スリルが大好きだったのです。

そんな少年も成長し
学校に通い始めましたが

勉強は得意ではありませんでした。

なぜなら、本当の仕組みを
教えてくれないからです。





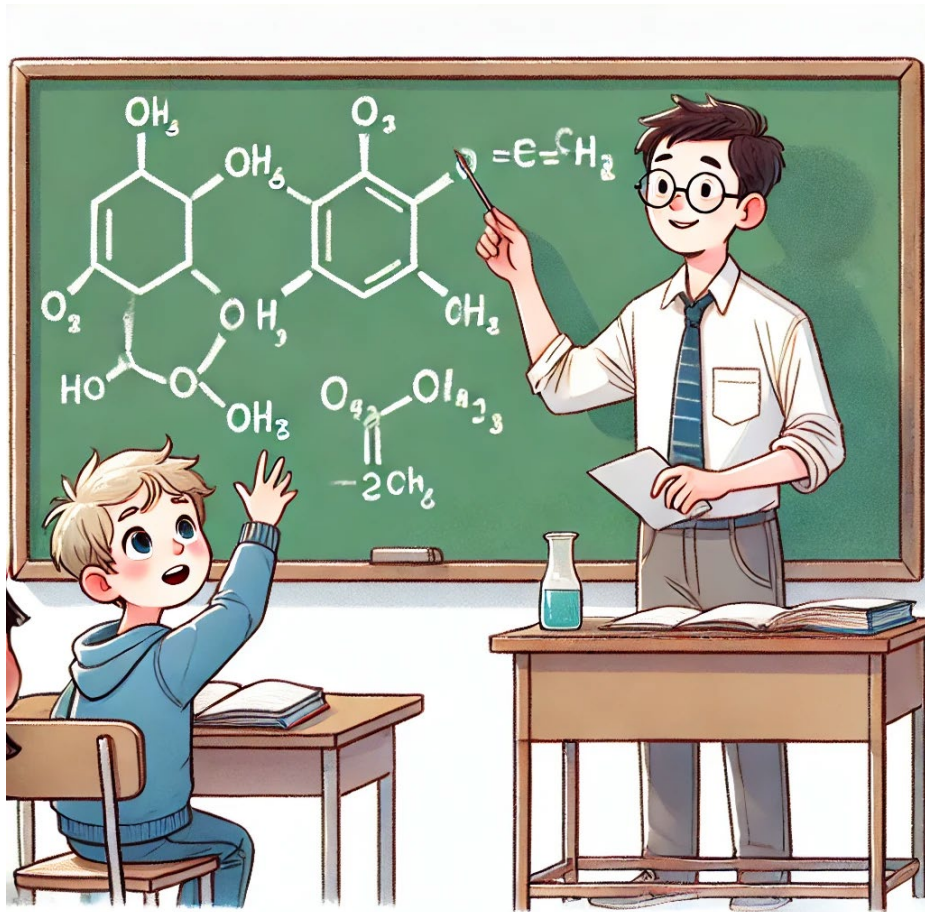
なぜ、 $1+1=2$ なの？
恐竜はなぜ、今は居ないの？
なぜ、磁石はくっつくの？
地球は丸いのに、なぜ
僕たちは落ちないの？

勉強すればすればするほど
疑問が増えて行きます。

そのうち先生や大人たちは、
「そんなことを考えても、
社会の役に立たないから
考えるのを止めなさい」
と言って、少年を説き伏せました

少年は思いました。
「なんだかこの世界は、
つまらないなあ・・・」





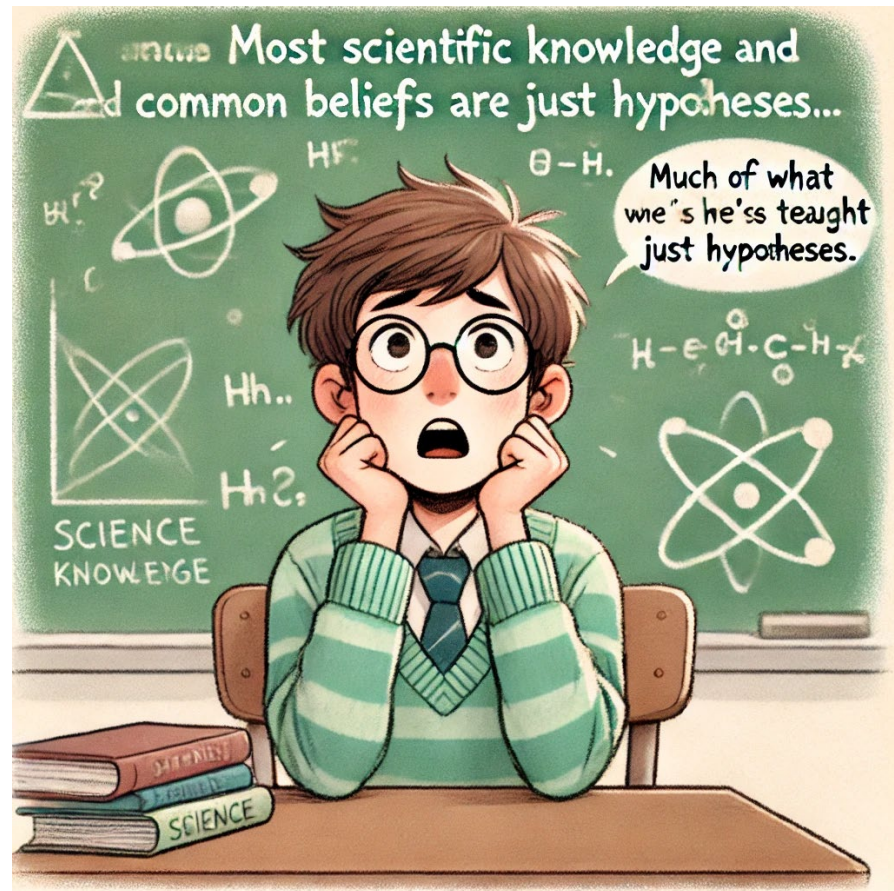
ある時少年は、化学の授業で先生に質問しました。

「先生はその元素って見た事があるんですか？」

先生は言いました。
「見た事はないけど、
偉い先生たちが発見して
世界的に信じられているんだよ」
と、少年を諭しました。

少年はその時思ったのです。



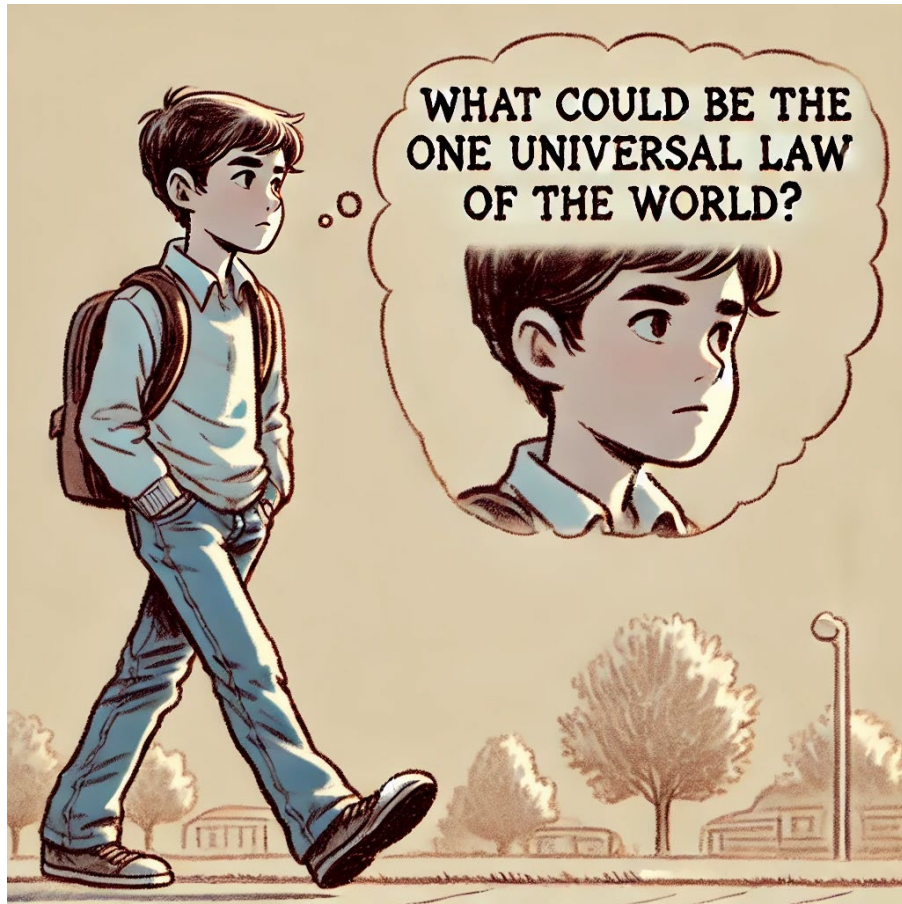


なーんだ
全部仮説じゃん！

そう思った少年は、
すべてがバカバカしく思えるように
なりました。

何のために、僕たちはこの世界に
居るんだろう？
何の意味があるんだろう？





すべては、誰かが「決めた」「法則」を
より多くの憶えて
その「法則」を憶えた量で
競い合っているだけ・・・

なんて非効率なんだろう？
世界の唯一の法則を見つけて
それだけ覚えればいいじゃん！

でも、そんな法則は見つかる
はずもなく・・・

少年は、どんどん落ちこぼれて
行きました。

大人たちは言いました。





「やれば出来るんだから

黙ってやりなさい！」

「考えても答えは出ないよ

将来の事をもっと考えなさい」

そういわれて、やってみますが・・・

どうにもうまく行きません。

なぜなら、興味が湧かないから

ただの仮説を沢山憶えて

なんの意味があるんだろう・・・



今思い返すと

ここから全ては始まっていたのかも
しれません。

唯一無二、不変の法則を知りたい...

成長した少年は
大人になってもなお、
社会に溶け込もうと
苦しんでいました。
何をやってもうまく行かない
未だに世界は「法則」ばかりで
「法則」に従わない者は、
生きてはいけない世界。





それでも男は
一生懸命働きました。
ズルはしないし
人にも優しく接したし、
出来るだけ親切を心がけました。
もちろん法則にも
出来るだけ従いました。

でも彼の心の中はいつもこうでした
「こんな事をしていて
本当に自分の人生を生きてる
と言えるのだろうか？」



次第に彼も、そのシステムに飲み込まれ
いつしか、こう思うように成りました。

「お金があれば、
全て解決するじゃないか！」

これこそが、SIMPLEかつ唯一の法則
と、思うようになっていったのです。

世の中は「法則」で成り立っている。
しかも、嘘の法則で成り立っています
人々にどれだけ嘘を信じさせるか？
嘘と虚構を信じさせた分だけ、
お金というポイントがもらえる。

美しさ・面白さ・カッコよさ…
やさしさや強さに至るまで、すべて
虚構を演出できた者を
人は成功者と呼んでいるのです。



そうして彼は、
その成功を得るために
沢山の法則を学びました。
いかによい虚構を作り出し
それを、より多くの人に
信じさせる事ができるのか？

それを、唯一無二の
宇宙の法則だと信じて…





その勉強は、すこぶる進展しました。
なぜなら、これが
唯一無二の法則であり
宇宙の法則だと信じていたからです。

この法則に則る事で、
世界は平和になり、
人々に夢を与え
幸せな生活が出来ると
確信したからです。

そして男は
もっと大きな成功を目指して
もっと大きな幸せを得るために
もっと認められて、
より多くの虚構を
作り出さなければ！

だって、これが「唯一無二の
宇宙の法則なのだから・・・





でも、ある時、男は疑問に思え始めました。

よく考えると、成功すればするほど面倒やトラブルも増え、必要な事がどんどん増えてくる。

シンプルで唯一無二の法則に則っているはずなのに、どんどん複雑になって行くのです。

本当にこれが、宇宙の法則なのだろうか？

また、子供の頃からの病気が発症し始めました。

これは、本当に自分が求めていた世界なのか？

そう考え始めると同時に、
転落も始まります。

事業はどんどん転落し、悪い事が立て続けに起こります。

その時男は思いました。

すべてやめてしまいたい・・・





そうして、男は全てを捨てました。
仕事を捨て、家族を捨て
友達と離れ、お金も信用も失い

男は、都会の真ん中で
一人ぼっちになってしまいました。

それでも男は諦めきれず
いつかまた、逆転してやる！
また返り咲いてやる！
だって、宇宙の法則に則れば、
絶対幸せになるはずなんだから…

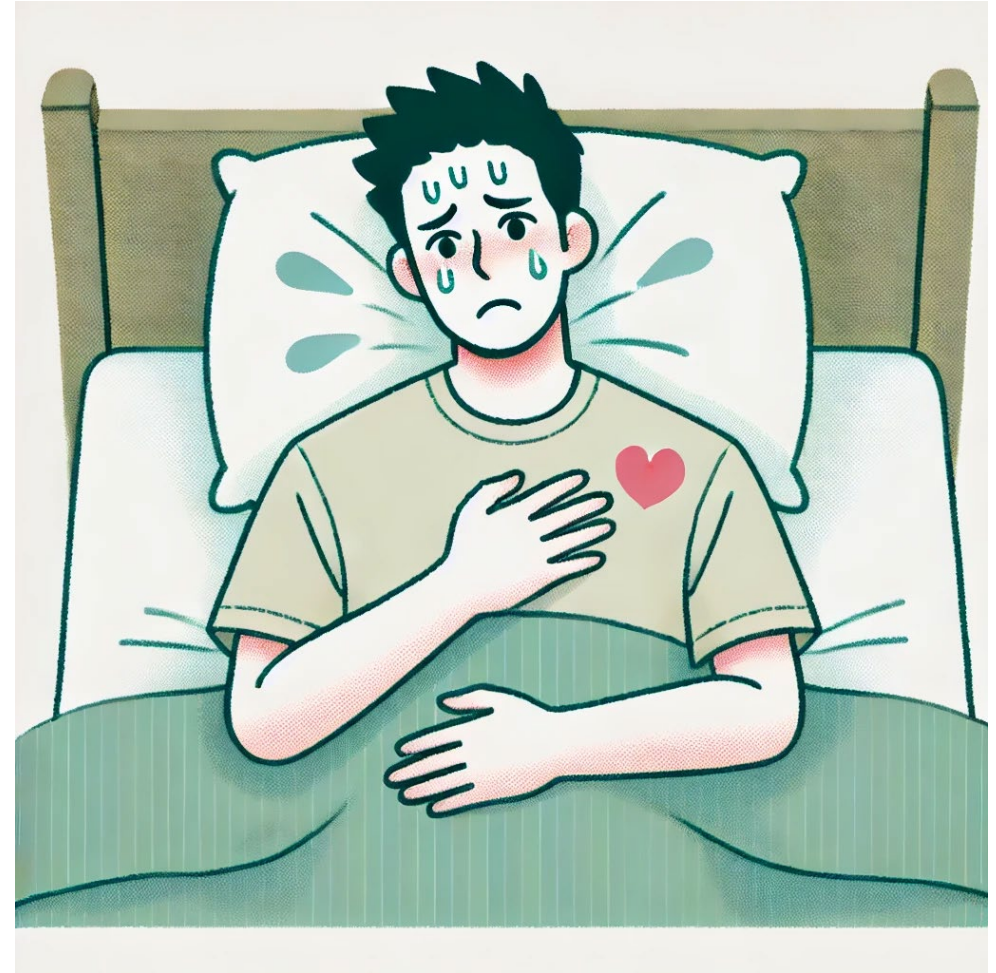
男は再びまた立ち上がり、
一生懸命両手を動かかし、浮き上が
ろうとしました。

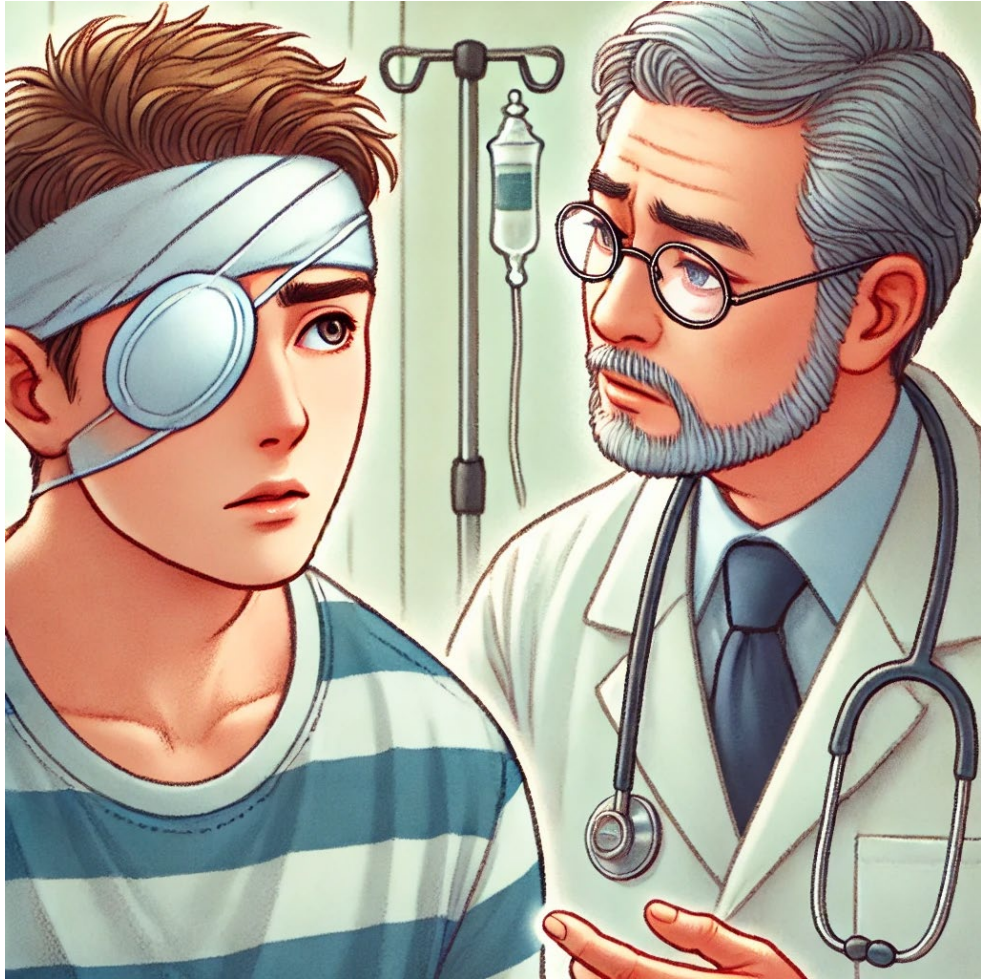




でも、もがけばもがくほど、
身体は水の中に沈んでゆき
得ようとすればするほど
それは遠ざかり
ごまかそうとすればするほど
どんどん自分が
信用できなくなっってゆく
それはまるで、
川をさかのぼるようでした

そして気が付くと
男はついに、
病気になってしまいました。





とても重い病気でした。

医者は、「あらゆる手は尽くした手術でも治らないかもしれない」と宣告したのです。

重度の顔面マヒで、一生瞬きすら出来ず、顔面はゆがみまともに笑う事すら出来なる事を告げられました。



しかし男は、あきらめきれず、
人生で初めて、必死になりました。
街中を走り回わり、
考えうるあらゆる治療法を探しながら

「必ず治す」

と硬く決めたのです。

そして男は

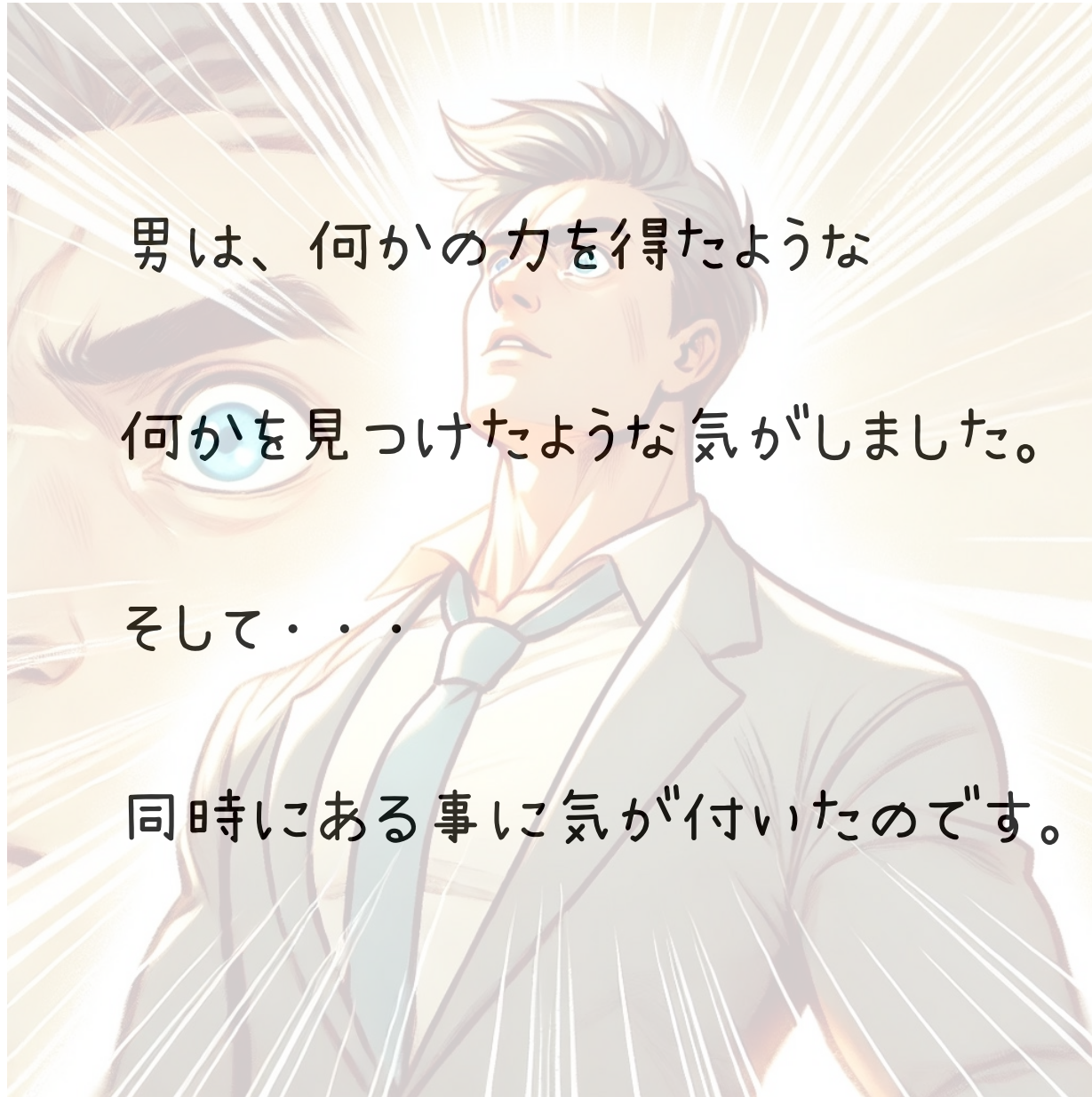
手術を断り、病院を後にしました。

そして、数か月後、なんと病気は
病院の治療を受けずに
完治しました。

その時男は、
一つの確信を得たのです。

本気で決断すれば、
それはかなうんだ！





男は、何かの力を得たような

何かを見つけたような気がしました。

そして・・・

同時にある事に気が付いたのです。



確信をもって、強い決意で
決定したものは、現実となる。

という事は、自分の今までの行い
成功できないのは、
確信していないから
決断していないからなんだ・・・

という事でした。



そこからまた、男は考えました。
なぜ、決断できないのか？
真剣さが足りないのだろうか？
本気になれる事ではないからなのか？
じゃあ、本当にやりたい事は何なのか？
結局どうすれば幸せに成るのだろうか？

どうすれば、決断できるのか？

考えに考えぬいた末にたどり着いたのは・・・

考えても思いつかないという事でした。

そこで男は、考えるよりも
とりあえず旅に出る事にしました。
全て失い、一から始めるには、
何をしたら良いのか？ なにかヒント
が見つかるかもしれない
という思いで、歩きだしました。
ただただ幸せの正体を探す旅です
自分の人生を
掛ける事の出来るものとは何か？
何を決断すべきなのか？





長く果てしない旅でした
嵐に会ったり
遭難しそうになったり
自分がどこへ向かっているのか？
何をしているのか？ 解らない
不安な夜を過ごしていました。

そんなある日

男は突然気が付きました

自分が何をすべきか？

自分は何に成るべきか？

ではなく、

自分が何をしたいのか？

自分が何をすれば幸せなのか？

なのでは？と思ったのです。





そして男は
自分が何をしたいのか？
なぜそれをしたいのか？
そして
自分は本当に何を
欲しがっているのか？
何日も何日も
紙に書き始めました。

そして男は
その紙に書いた
リストを携えて
そのすべてを
やってみる事にしました。



キャンピングカーを作って全国を旅したり、恋愛を楽しんだり
行きたかった場所に旅行したり
好きな事を仕事にして、お金を稼ぐ、毎日がワクワクで幸せな



ハズでした。





自由が欲しかった。
冒険がしたかった。
愛情が欲しかった。
みんなをアッと
驚かせたかった。

全部やってみたのに・・・

幸せでは無かったのです・・・

なぜだろう？

自分のしたい事を

しているはずなのに

人がうらやむ事が

出来ているはずなのに

なぜ、楽しくないのだろうか？



そして男は
またもや考え始めました。
お金じゃなかった。
時間じゃなかった。
自由じゃなかった。
認められる事じゃなかった。
本当の本当の自分の中心が
求めるモノは何なのか？



そして男は
ある事に気が付きました。

自分はずーと自分の外側ばかり
見て、他人や社会と比べてその
世界の中で、その基準にあった、
法則を見つけようとしている！

そうか！ 答えは自分の中にしか
ないのか！



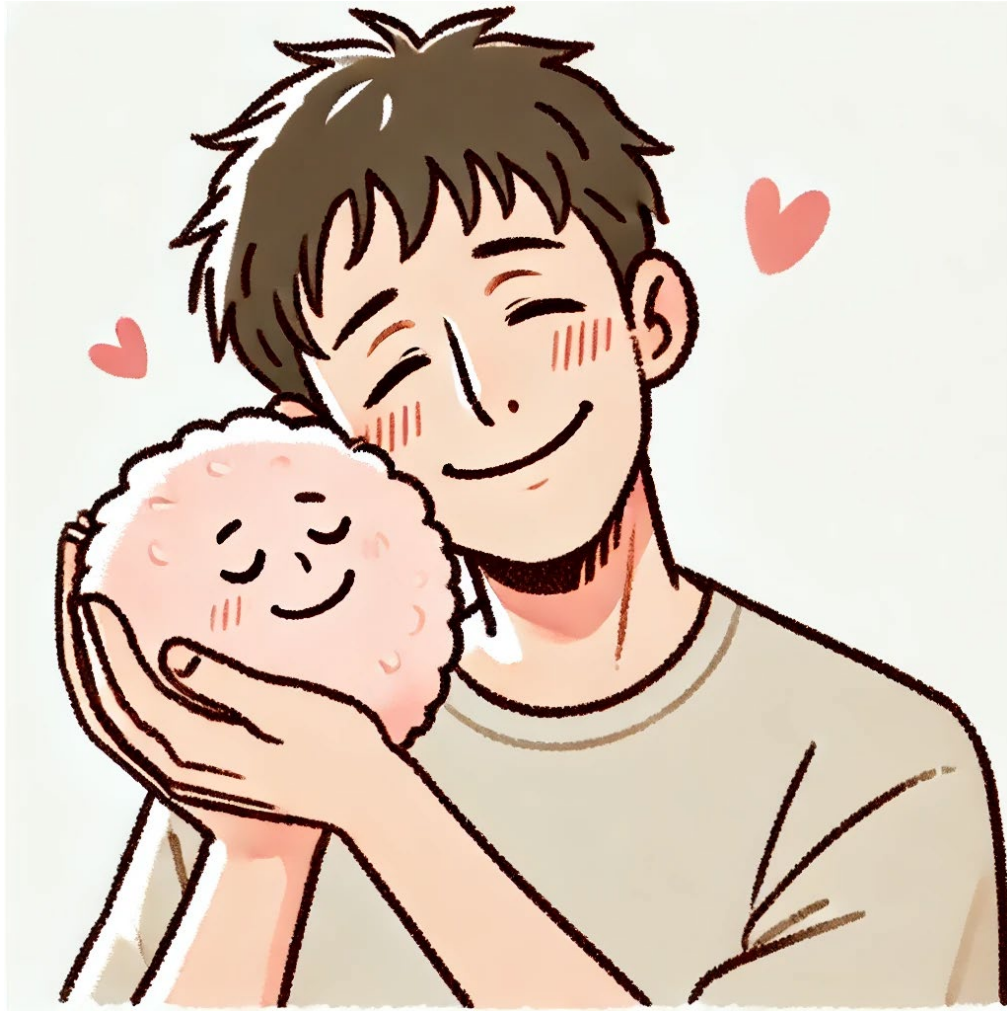


そうして男は、
自分の本当の気持ち
また、なぜそう思うのか？
本当に自分が求めるモノは
何なのか？
心の奥底の素直な気持ちや
無条件に欲しいものを
何日も何日も
掘り下げて行きました。

そして、そこに残ったのは・・・



なんだかフワフワして、あったかい物体でした。



そのフワフワは、生き物の様でもあり
優しくて、柔らかく、暖かい
いい匂いがして、何とも言えない
肌触りで、頬擦りするだけで
心が安らかになるイメージが
頭の中に浮かびました。
何だか解らないけど、とにかく
そんなモノを求めているという
陳腐な答えとなったのです。

でも待てよ？

これは一体何なんだ？

こんなもの実際には存在しないし

動物じゃないし

そもそも、こんな実在しないものを
自分が欲しているなんて・・・

いったい、どうすりゃいいんだ！？





その時、頭の中に一言の言葉が聞こえて来たのです。

「それって、愛じゃね？」

と、誰かがつぶやいたようでした。

そうか！俺はただ
愛が欲しかったのかあ～
愛だけあれば、俺は幸せなんだあ～
後は、どうやって「その愛」をGETするかを
考えるだけ… 😁

ですが” . . .





Wait a minute..”

待てよ・・・

そもそも愛とは何なんだ？

愛があれば幸せになれるのは
解ったけど・・・

その愛がなんなのかが解らないし
手に入れる事はできないよなあ～

そこからまた男の探求が始まりました。

愛とはなんなのか？

「許す事」なのか？

「受け入れる事」なのか？

「待つ事」、「信じる事」

「やさしさ」「育む事」「与える事」

いったい「愛」とは何を指すのか？

何をどうすればいいのか・・・





男は何日も
考え続けました・・・

そんなある、満月の夜
男は相変わらず
「愛」とは何なのか？を
考えながら
浜辺を歩いていると・・・





目の前に突然
大きな光る球が現れたのです。
男は思わず
「うわあー！月が落っこちて来たー」
と叫びながら、慌てふためきました。
でも、なぜだか恐怖は感じず
ドキドキはするけど、どこことなく温かい
親近感を覚えたのです。

男は好奇心に駆られながら、その球に
近づいてみる事にしました。

その球に近づいてみると
何やら、ブツブツつぶやいている
ような、男に話しかけている様な
もしかしたら、僕の疑問に
答えてくれるのかも！
と、男は直感し
その球に
「愛」とは何なのか？
尋ねてみました。





しばらくすると、球の中心が
ぐるぐる～となって、
なにやら、方程式のようなものが表示され
ました。

$$\heartsuit = \textcircled{!} \times \textcircled{\rightarrow}$$

男は、まったく意味が
解らなかつたので、
球に、もっとわかりやすく
説明してくれと頼みました。

すると、即座に球の真ん中に
このように表示されました。





え？

愛 (LOVE) = 決める (DECIDE) × 行動する (ACT)

って事？

愛とは、自分で決めて、行うこと？・・・

男は、突然怒りが湧いてきました
あんなに苦しんで、
長い時間をかけて、
やっとたどり着いた答えが、
こんなはずない！

愛とはもっと、高尚で、清くて
暖かくて、優しくて・・・

いい加減な事をいうな！

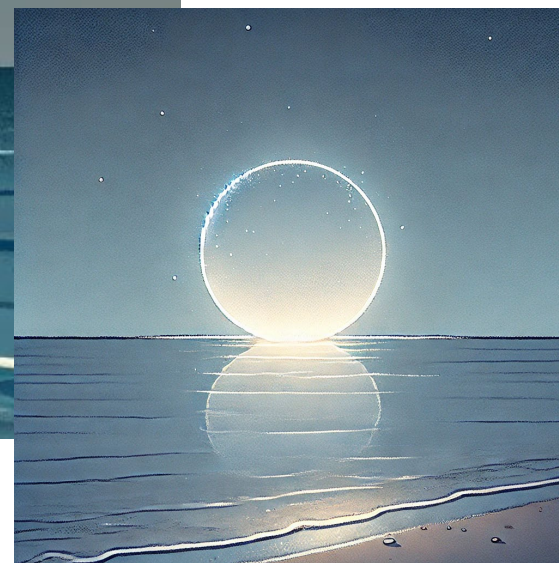
男はそう叫びました。





Decide for yourself
自分で決めなさい

すると、球にフワッと文字が「現れ
「自分で決めなさい」
と表示したまま・・・



ゆっくりと消えて
行きました・・・

男は、落胆しました・・・

「僕が探していたものは、
こんなものだったのか？・・・」

男はこれまでの人生が、
バカバカしく思えて来ました。

人生をかけて探していた
「愛」が、あんな方程式なんて
とても受け入れられなかったの
です。





しばらくして
立ち直った男は、おもむろに
腰を上げ、家路につく事に
しました。
道すがら、男は考えました。
「愛とは、自分で決めて
行こう事かあ……」
例えるとどういうことかなあ？
そう考えてみたのです。



例えば、「人を愛する」として
恋人や家族、友人や同僚への愛
「ふむふむ、まあ、相手にもよるし
時と場合にもよる、しいて言うなら
そういう条件に囚われないってのが
愛って事かなあ・・・」

「ん？ それって、自分で決めて
る事？」

「え？、ちょっと待って！
愛って！もしかしてそういう事！？」

仕事と愛を公式に当てはめると？
やりたい仕事、やりがいのある仕事

その仕事への愛は…
やると決めて、行った量…





じゃあ、じゃあ、趣味は？
音楽やスポーツ、絵画やモノづくり
やろうと決めて…実行する…
ペットは？
飼うと決めて…世話をした量…
えーとえーと、そうだ！政治は!?
やると決めて…
正解は無いわけだし…

そうだなあ～

どれにも当てはまるじゃね〜か！

良い悪いじゃないんだ！

覚悟をもって決めた事は…

すべて「愛」になるんだ！






「でもでもでも
戦争も犯罪も、動機によっては、
愛に成るって事になっちゃうよ!？」

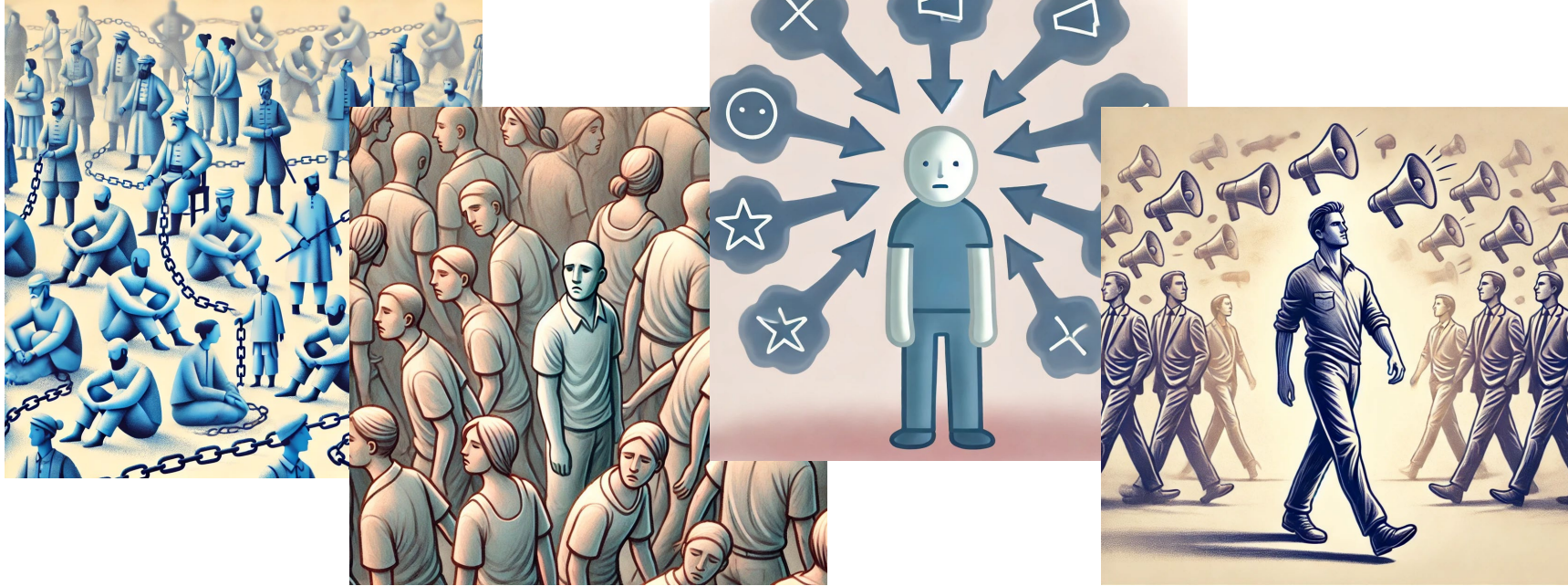
法律違反はいけない事だし…
何よりも、人を傷つけちゃ
いけないでしょ!

そんな事に頭を巡らせていると、
また、心の中でさっきの球が
こう言いました。



「それが、本当に自分で決めた事ならね…」

そうなのです。我々は、多くの事が自分で決められていません。



法律はもちろん、常識や同調圧力、プロパガンダ、損得勘定などで決められた事であって、自分で決めていないのです。

自分で決める事、
覚悟して、決断する
そうして行う行為のみ
それは「愛」となり、
自分や他人、引いては社会に
影響を与える事が出来るのです。



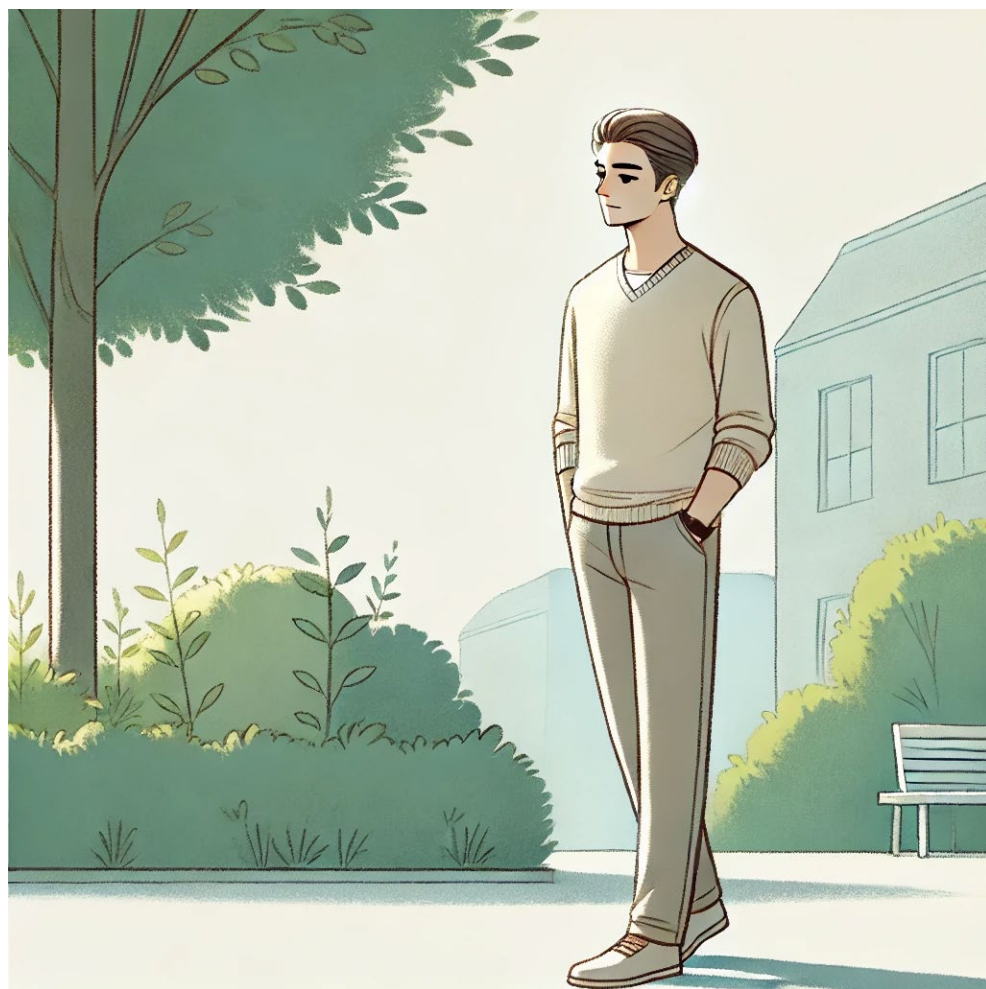
思い返すと

男の人生は、全てこのことに気付くように、導かれていたのかもしれない。

子どもの頃から探していた、唯一無二の宇宙の法則は、まさにこれであり。

男は、例えようのない安ど感を得たのでした。





男は決めました。
この「愛」を広めよう…
この公式を広める事が
僕の愛であり
僕の本当にやりたい事だから
そうする事で、多くの人々が
愛のある幸せを得る事が出来て
僕自身も幸せになれるのです。

そして男、船出をする事にしました。
なぜなら・・・



愛とは自分で決めて行く事だから・・・

追伸：「そんなの愛じゃない！」と言っているあなた。
そう決めて、そう言っているって事は、
立派な愛ですよ😊

ありがとう